

総合型地域スポーツクラブを核とした活力ある地域づくり推進事業実践事例

都道府県名	福岡県	受託団体名	財団法人福岡県スポーツ振興公社
-------	-----	-------	-----------------

実践テーマ 「障害者のスポーツ参加機会の向上」
 ～障害者が健常者とともにスポーツを楽しむことができる地域スポーツ環境の構築～

【テーマ設定の理由】

総合型クラブの設立により、地域のスポーツ環境は整備されてきているが、障害者が日常的にスポーツを楽しむ環境は十分とは言えない。そこで、広域スポーツセンターを窓口にも、各関連機関や団体と総合型クラブを結びつけることにより、地域の人材や施設の有効活用を図るとともに、継続してスポーツプログラムに取り組むことのできる仕組みづくりをとおして、障害の有無に関わらずスポーツを楽しむことができる地域スポーツ環境を構築できるものと考え設定した。

実践クラブ評価委員会

満園 良一（久留米大学 教授）	田中 浩子（中村学園大学 教授）
田中 友治（福岡県スポーツ少年団本部長）	鶴田 安秀（県体育指導委員協議会理事長）
白水 卓之（NPO法人春日イーグルス理事長）	山崎 憲治 （若松サンシャインスポーツクラブ理事長）
行實 鉄平（久留米大学 講師）	山野 明（県障害者スポーツ協会主任指導員）
堀 秀行 （県社会推進部県民文化スポーツ課企画監）	野口憲一郎 （県福祉労働部障害者福祉課社会参加係長）
梅田 保人（県教育庁教育振興部 体育スポーツ健康課課長補佐）	高山真理子（県教育庁教育振興部 義務教育課主幹指導主事）
松永 和生（財団法人福岡県体育協会 常務理事兼事務局長）	弥栄 雅隆（県立小倉聾学校教頭） 【特別支援学校教頭会会長】

課題解決のために連携をとった機関・団体

- | | |
|---|--|
| <ul style="list-style-type: none"> ■福岡県障害者スポーツ協会 ■久留米大学 ■北九州市教育委員会 | <ul style="list-style-type: none"> ■障害者スポーツ指導員 ■北九州市スポーツ少年団 ■春日市教育委員会 |
|---|--|

【上記機関・団体と連携をとった効果】

総合型クラブ単独では得られない人材や情報を求めるだけでなく、指導の場を求める指導者やスポーツ指導の実際に学びの場を求める学生、社会貢献や発表・練習の場を求める障害者スポーツチームなどへ場の提供ができたとともに、特別支援学級児童への情報提供など、相互利益の関係が生まれ、地域スポーツ環境の構築を通して、地域の活力となりつつある。

実践クラブ名 NPO法人Webスポーツクラブ21西国分

【クラブ概要】

- ・設立年月日 平成 14 年 2 月 1 日 設立
- ・クラブ所在地 福岡県久留米市諏訪野町1563
- ・クラブの特色 青少年の健全育成、地域住民の生涯スポーツ推進のために活動をはじめたクラブ。地域が、元気で連帯感あふれる街になるため、長期的な視点から、スポーツに留まらず、ボランティアなどの幅広い活動を行い、学校、校区公民館などと連携を図るとともに、将来の指導者やスタッフの育成も図っている。
- ・クラブマネジャーの活動状況 非常勤・無給
- ・会員数(H21.7.1現在) 530人
- ・定期活動種目数 28 種目
- ・会費の種類と金額 クラブ会員 2400円／年、一般会員 3000円／年
- ・平成21年度総予算額 5,300,000 円

実践プロジェクト① 親子体操教室

◆プロジェクトのねらい

障害の有無に関わらず、地域の人が共にスポーツを楽しめる機会をつくり、健康の維持・増進を図るとともに、教室への参加をとおして、地域でのスポーツ参加機会の向上と交流をさらに深めることができるようにする。

◆実施概要

対象者：知的障害児（小学生）とその保護者／開催日及び回数：6月～2月の土曜日10：00～12：00 8回開催／1回500円／会場：久留米大学御井学舎／指導者：2名、指導補助員：3名 ボランティアスタッフ12名

◆参加者数 親子8組

◆活動の様子



◆評価

昨年度の取組から本教室に一定程度のニーズがあることが把握できたため、継続化へ向けた取組ができた。地域の大学（久留米大学）と連携した実践であり、場の提供や、ボランティアスタッフとして中級障害者スポーツ指導員の資格取得を目指す学生の学び場ともなった。

実践プロジェクト② 障害者スポーツフェスタ&障害者スポーツ体験教室「ふれあいスポーツフェスタ」

◆プロジェクトのねらい

障害の有無に関わらず地域で共に楽しめるスポーツ活動をとおして、障害者スポーツへの理解を促進するとともに、障害者が地域におけるスポーツ活動への参加意欲の向上を図ることができるようにする。

◆実施概要

日時：平成21年12月23日（水）8：30～17：00／会場：久留米大学御井学舎御井アリーナ／協力：久留米大学（AST）、九州共立大学アダプテッドスポーツ研究会、西九州大学ESRD、博多パトラッシュ（車いすツインバスケットボールチーム）／実施種目：車椅子バドミントン・ボッチャ・車椅子ツインバスケットボール・風船バレーボール・フライングディスク競技他

◆参加者数 106名

◆活動の様子



◆評価

地域（総合型クラブ）、県障害者スポーツ協会、大学、広域スポーツセンターの連携により「フェスタ」を開催することができたとともに、障害者スポーツに携わる3大学間の交流及び連携（結びつき）を図ることができた。取組の継続とそのモデル化により、地域で取り組む障害者スポーツの環境づくりへと発展させたい。

実践プロジェクト③ チャレンジスポーツひろば(冬季スポーツ教室)

◆プロジェクトのねらい

障害の有無に関わらず、地域の人が共にスポーツを楽しめる機会をつくり、健康の維持・増進を図るとともに、教室への参加をとおして、地域でのスポーツ参加機会の向上と交流をさらに深めることができるようにする。

◆実施概要

主催：財団法人福岡県スポーツ振興公社／主管：若松サンシャインスポーツクラブ／
日時：平成21年12月28日（月）、平成22年1月6日（水）いずれも10:30～
12:30／参加者数：延べ13名／実施種目：ナイスバッティング・フライングディスク
競技（アキュラシー）等

◆参加者数 延べ13名

◆活動の様子



◆評価

北九州市スポーツ少年団「竹の子プレイスクール」と連携した教室の開催ができたとともに、参加児童の保護者から、プログラムのよさやスポーツ教室へのニーズがあること等の情報を得ることができた。今後は広報のあり方を含め、参加者拡大の方策の検討が必要。

実践プロジェクト④ 運動・スポーツへの取り組みや意識に関するアンケート調査

◆プロジェクトのねらい

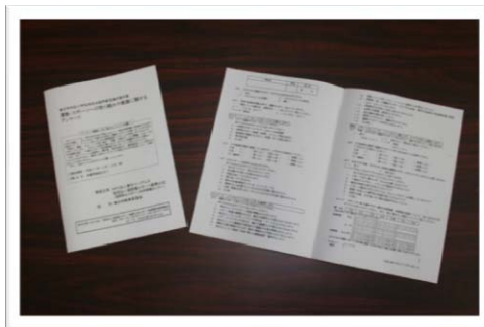
春日市内各小学校特別支援学級在籍児童を対象にアンケート調査を行い、「地域で日常的に運動やスポーツを楽しむことのできる環境づくり」について検討するための基礎資料を得ることを目的とする。

◆実施概要

主催：NPO法人春日イーグルス、財団法人福岡県スポーツ振興公社／協力：春日市教育委員会／調査対象者：春日市内各小学校特別支援学級在籍児童106名／実施方法：教育委員会から市内各小学校へ調査票を配布。回収は、各学校から教育委員会へ提出／実施期間：平成21年12月14日（月）～12月18日（金）

◆参加者数（回収枚数:65枚【回収率61.3%】）

◆活動の様子



◆評価

対象児童の運動・スポーツに対する必要性と欲求及び保護者が考える予算や頻度の程度が明らかとなり、スポーツ教室開催等、運動やスポーツを楽しむ環境づくりにおける基礎資料とすることができた。

実践プロジェクト⑤ 情報提供活動

◆プロジェクトのねらい

障害者を対象とするスポーツの環境づくりは、多くの総合型クラブにとって「課題が多く困難なこと」と考えられている。そこで、その課題の解決法について情報を提供することで「障害者がスポーツに取り組める環境づくり」について理解を促す。

◆実施概要

期間：平成21年11月～平成22年2月／会場：県内5地区の総合型クラブ連絡協議会会場
時間：各会場1時間程度／対象者：県内総合型クラブの運営等に携わる方／情報提供者：山野 明(福岡県障害者スポーツ協会主任指導員)、中村真一郎(福岡県立スポーツ科学情報センター スポーツ主事)

◆参加者数 計85名

◆活動の様子



◆評価

クラブ関係者に「取り組みが困難である」と思われがちであったことに対し、この情報提供から、その取り組み方について一定の理解を示していただくことができた。今後、実際の取り組みについては、モデルとなるクラブを示し、「課題解決法とその実際」として情報提供を行うことで、一層取り組みやすくなるのではと考える。

本事業の成果

- 各教室について、継続実施に向けた取り組みができるようになった。
- 特別支援学級在籍児童対象に行ったアンケート調査により、スポーツに対する必要性と欲求及び保護者が考える予算や頻度の程度が明らかとなり、スポーツ教室開催等、スポーツを楽しむ環境づくりにおける基礎資料とすることができた。
- 広域スポーツセンターを窓口に、総合型クラブを核として、市町村教育委員会や県障害者スポーツ協会、地域の大学や障害者スポーツ指導員、スポーツ少年団等、連携を図った事業を展開することができた。

本事業の課題と今後の取組

- より多くの総合型クラブが取り組む障害者スポーツプログラムロールモデルの確立。
- 県内各地で障害者スポーツ教室に継続して取り組むための指導者の体制や場の確保。
- より多くの参加者を求めるための呼びかけ等、広報の工夫。
- 障害者スポーツを中心とした総合型クラブ設立に向けた支援。

(本件問合せ先：財団法人福岡県スポーツ振興公社 TEL092-611-1717)